

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



桜咲く4月。新入学・就職の季節です。一部の大学では秋入学も検討されていますが、春が新しい旅立ちや志にぴったりと感じるのは、私だけでしょうか？フレッシュマンであった頃の不安と期待の混じった気持ちを思い出して、私も心機一転して頑張りま〜す！

世話人からのメッセージ

「震災からの一年」

佐藤循環器内科 佐藤 譲先生

平成23年3月11日、巨大な地震と津波が東日本を襲い、多数の生命が失われ、壊滅的な被害が出た。その後、原子力発電所の事故から避難を余儀なくされた人々が未だに帰宅できずにいる。約1年たった今でも瓦礫の処理は完了していない。政府や原子力関係者からは「想定外」という言葉が乱発された。透析患者や施設にも被害が出たが、施設の連携で何とかしのいできたと聞いている。私の住んでいる四国は被災地から1000km以上離れた西側にあるため、直接的な影響はないと思っていた。しかし、透析医療は多数のディスポザブルな消耗品を継続して使用しており、たった一つ、たとえばダイアライザーのキャップ一つでも欠品すると透析医療そのものが失われる恐怖を味わった。さらに、透析患者にしか投与されない塩酸セベラマー製造工場が被災したため

震災発生後2カ月後から塩酸セベラマーが国内から無くなり、血清リン管理の方法に苦慮した。

私たちは阪神大震災などの過去の大地震から、各施設が、また施設が連携してライフラインやロジスティックの確保などの透析医療の確保に取り組んできたが、消耗品の部品や医薬品にまでは意識がいていなかったように思われる。まさに我々も「想定外」の事態を経験させられた。平成23年は「絆」で終わった。

このような過酷な状況にも関わらずJ-DAVIDの研究は継続して行われている。日本の透析医療は世界最高水準であると思っているが、それを証明するエビデンスを多数発表していただけたと思っている。私たち開業医も参加させて頂いて光栄に思っている。今年も震災から2度目の桜が咲き始めている。J-DAVIDが満開の桜を咲かせる日が来るのを期待してやまない。



最近の文献から

血漿25(OH)D濃度と糖尿病発症. Diabetes Prevention Programの追加解析

Plasma 25-Hydroxyvitamin D and Progression to Diabetes in Patients at Risk for Diabetes. An ancillary analysis in the Diabetes Prevention Program.

Pittas AG, et al. Diabetes Care 35: 565-73, 2012.

【ポイント】 Diabetes Prevention Programのプラセボ群(N=1022)と生活習慣強化群(N=1017)を合わせた2.7年間の観察コホート研究。25(OH)D濃度低値群(第1三分位)に比して高値群(第3三分位)では糖尿病発症リスクが低く(HR 0.72, 95%CI 0.56-0.90)、プラセボ群も生活習慣強化群でも同じ方向であった。

【詳しくは】 <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22323410?dopt=Abstract>

最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(3月23日現在)

症例報告書回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	中止時	脱落基準	SAE	イベント
前月	976	834	808	557	382	252	104	33	71	108	61	100
今月 (前月比)	976	834 (±0)	808 (±0)	579 (+22)	389 (+7)	263 (+11)	132 (+28)	48 (+15)	72 (+1)	111 (+3)	55 (-6)*	108 (+8)

*イベント評価委員会にて「SAEでない」と判定されたデータを削除したため

内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE	イベント	総数
発行	1053	621	440	288	178	67	49	2	739	96	11	11	11	3566
回収	1035	607	402	267	167	62	30	2	640	88	10	9	9	3328
回収率 (%) (前月比)	98.3 (-0.1)	97.7 (-0.4)	91.4 (-2.0)	92.7 (+0.4)	93.8 (+8.6)	92.5 (-1.4)	61.2 (+4.4)	100 (—)	86.6 (+1.8)	91.7 (+0.4)	90.9 (-0.9)	81.8 (—)	81.8 (-18.2)	93.3 (+0.4)

J-DAVID事務局からのお知らせ



共同研究費(2011年分)のお支払について

「共同研究費 振込請求書(2011年分)」のお支払い(ご指定口座へのお振り込み)が完了いたしました。(口座確認中の一部ご施設を除く。)近日中に「振込明細書」と「入金確認書」をお送りいたしますので、ご確認のうえ「入金確認書」のご返送をお願いいたします。

J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



「症例報告書(3ヶ月)」の提出をお願いいたします

「症例報告書(3ヶ月)」をまだ提出されていない症例につきましては、速やかにご記入いただき、ご送付くださいますようお願いいたします。現時点で、98症例(13施設)の症例報告書が未回収という状況です。100%回収(観察前中止/中止/死亡症例除く)まであと少しですので、ご協力よろしくをお願いいたします。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>